

興味の広がり

私が大学に入学して最も強く感じたのは、自分の興味のある分野は高校までの勉強ではわからないということです。私は、大学に入学する以前から、男女差別的な問題に関心がありました。しかし、知識不足もあり、自分の気持ちを言語化することはできませんでした。つまり、問題となっている事象に対して、どこがどのように問題であるというようには言えず、なんだかややもやするという曖昧な言葉でしか表現できなかったのです。しかし、大学1年生の時に、教養教育科目でジェンダーの授業を履修した時に、今までのもやもやの言語化はジェンダーについて理解することで可能になるのではないかと感じました。私の所属する学部は、専門にとらわれず幅広い知識を養うことを重要視しています。私は、心理学を専門にしたいと考えており、その気持ちは変わっていないが、ジェンダーについて心理学の側面から考えたいと思うようになりました。

私は、自分の考え方を変えたいという気持ちで、心理学を専攻したいと思っていました。しかし、心理学では、私の考えや気持ちを否定することはなく、そのように考えた要因について理解を深めようとしていると感じました。今、私のように自分の考え方を変えたい、あるいは生きにくいと感じているのは、男性・女性だからという理由で自分の自由が制限されている人ではないでしょうか。私は、ジェンダーや心理学の授業を受講して、そのように考えるようになり、大学生活で自分のやりたいことが明確になりました。

私は、自分がマイノリティだと感じたことはありませんが、その感覚も少し誤っていることが明らかになりました。それは、「性とは SOGIESC(*) で構成され、スペクトラムで表される」という考え方からです。これは、私たち人間は、男性と女性の両極端に分かれるのではなく、1人1人異なっているという考え方です。ジェンダーは比較的新しい学問領域であるため、大学で常に新しい知識を身につけていくことが重要になると考えます。これからも大学という学びの場を最大限に生かせるよう勉学に励んでいこうと考えます。

* SOGIESC : Sexual Orientation (どのような人を好きになるのかという性指向)、Gender Identity (自分がどのような性だと思うかという性自認)、gender Expression (振る舞いや見た目などをどのようにしたいかという性表現)、Sex Characteristic (身体の状態である身体の性的特徴)からなり、ひとりひとりの尊厳と人間性に不可欠であるとされるもの。